

Googleアナリティクス4を はじめるために必要な 3つの設定

INDEX

Googleアナリティクス4とはなにか？	p.01
GA4プロパティを作成する	p.06
データストリームを追加する	p.09
計測タグを挿入する	p.15



01

Googleアナリティクス4とはなにか？

01

Googleアナリティクス4とはなにか？

Googleアナリティクス4 (GA4)は、Googleより無償で提供されているイベントトラッキングツールです。

主に自社サイトのアクセス状況を分析し、改善するために利用されます。



01

Googleアナリティクス4とはなにか？

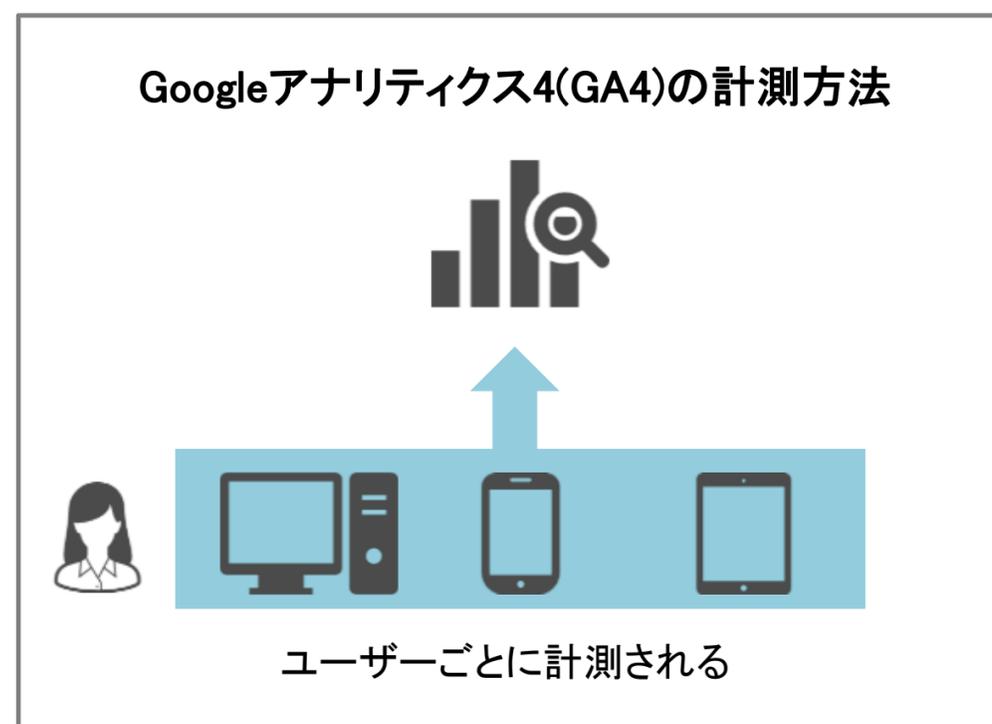
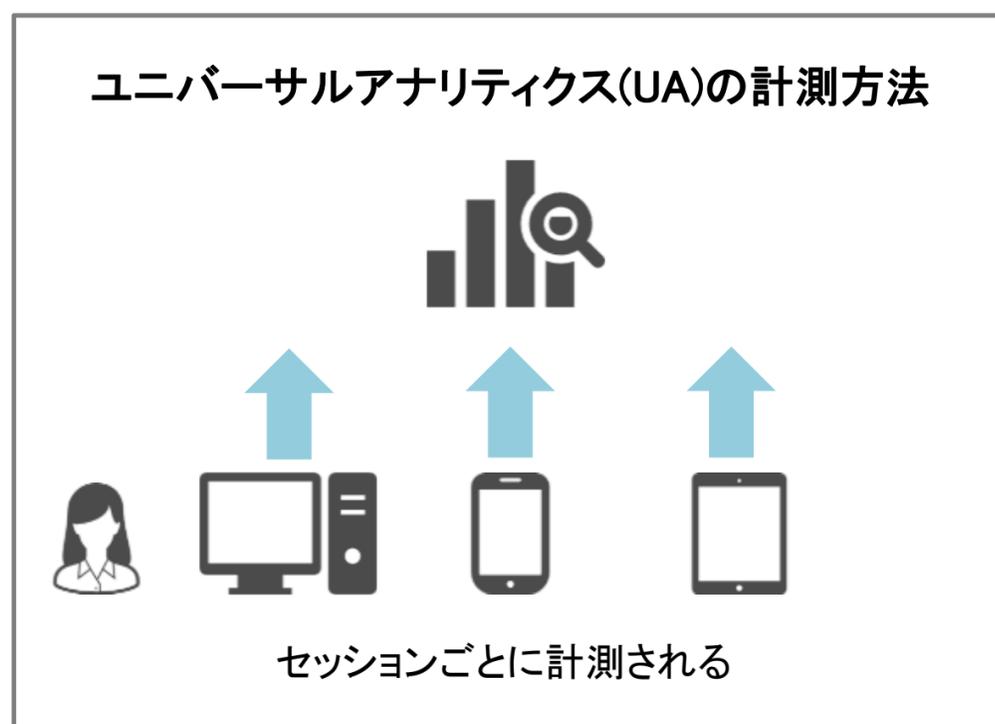
【ユニバーサルアナリティクスとの違い】

GA4がリリースされる前までは、UA（ユニバーサルアナリティクス）が主流でした。

この二つの大きな違いは計測方法にあります。

今まで主流だったUAは**セッション**を主軸にした計測でしたが、GA4では**ユーザー**が主軸になりました。

UAは、ページのセッションが開始されてから終了するまでの一連の行動を計測する方法でしたが、GA4ではユーザーが自社の媒体で行動を開始してから終了するまでの一連の行動を計測するため、例えばデバイス間の移動などがあっても続けて計測が可能となっています。



01

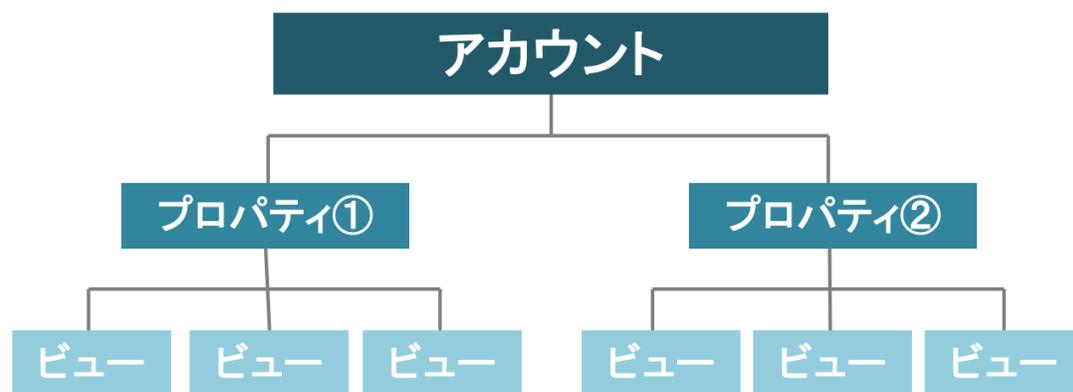
Googleアナリティクス4とはなにか？

【ユニバーサルアナリティクスとの違い】

これまで使用されていたUAは[アカウント>プロパティ>ビュー]という構造になっていました。
これに対し、GA4の構造は[アカウント>プロパティ>データストリーム]となっています。

プロパティの下に別の階層としてデータストリームがあるように感じるかもしれませんが、実際はプロパティにデータストリームが内包されているようなイメージです。

ユニバーサルアナリティクス(UA)のアカウント構成



Googleアナリティクス(GA4)のアカウント構成

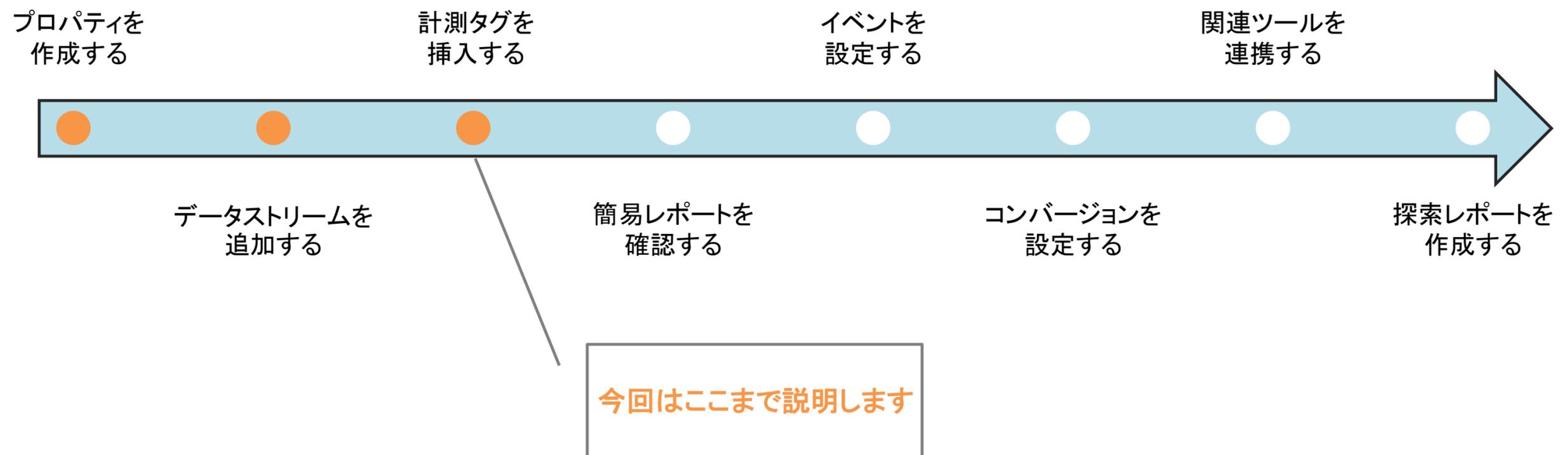


01

Googleアナリティクス4とはなにか？

【Googleアナリティクス4導入～レポート作成までの手順】

GA4でレポートを導入してからレポートを作成するまでにはいくつかの設定が必要です。
今回は移行作業に必要な設定等を順を追って説明します。



02

GA4プロパティを作成する

02 GA4プロパティを作成する

GA4を開始するにあたり、まずは以下の3つの設定を行います。

- GA4プロパティを作成する ……p.07
- データストリームを追加する ……p.09
- 計測タグを挿入する ……p.15

まずはGA4のプロパティを作成していきましょう。

02 GA4をプロパティを作成する

【 GA4プロパティを作成する 】



①UAのプロパティを開き、左下メニューの[管理]をクリックします。

②プロパティ列の[GA4 設定アシスタント]をクリックします

③[はじめに]をクリックします。

④[プロパティを作成]をクリックします。

これでGA4のプロパティ作成は一旦完了です。

03

データストリームを追加する

03

データストリームを追加する

【 データストリームとは 】

GA4で使用されるデータストリームとは、言わばデータの収集源です。

ウェブサイトとアプリをまたいだ計測が可能になったことは前述しましたが、このデータストリームでサイトやアプリの情報を登録することで、プロパティ内でデータを共有できるようになります。

データストリームでは、大きく分けて「ウェブストリーム」と「アプリストリーム」の2つを登録することができます。

■ウェブストリーム

Webサイトからの情報を収集するためのデータストリームです。

複数のウェブサイトを所有していても、基本は1つのウェブストリームで管理します。

■アプリストリーム

アプリからの情報を収集するためのデータストリームです。

AndroidとiOS用のデータストリームが各1つずつ作成できます。

※アプリを持っている場合は登録できます。

03

データストリームを追加する

【 ウェブストリームを設定する 】



データ収集を始めるためにデータストリームを設定する

ストリームとは、プロパティのデータソースです。1つのプロパティに複数のデータストリームを設定できます（1つのデータストリームに1つのプラットフォームが紐づけられています）。このデータは、レポートとアナリティクスに表示できます。



【GA4プロパティを新規作成した場合】

①GA4プロパティを新規作成した場合、そのままデータストリーム作成画面に移ります。

②データストリーム選択画面が出るため、「ウェブ」を選択します。

【GA4の管理画面から設定する場合】

①GA4メニューの左下[管理]をクリックします。

②プロパティ列の[データストリーム]をクリックします。

③データストリーム選択画面が出るため、「ウェブ」を選択します。

03

データストリームを追加する

【 ウェブストリームを設定する 】

ウェブストリーム設定画面に移ります。

ウェブサイトのURL、任意のストリーム名を記入し、[ストリームを作成]ボタンをクリックします。
これでウェブストリームの作成は完了です。

× データストリームの設定

ウェブストリームの設定

ウェブサイトの URL	ストリーム名
<input type="text" value="https://"/> <input type="text" value="www.dmcj.jp"/>	<input type="text" value="デジマブログ"/>

拡張計測機能

ページビューの標準測定に加え、サイトのコンテンツとのインタラクションを自動的に測定します。
リンクや埋め込み動画などのページ上の要素のデータは、関連するイベントとともに収集される場合があります。個人を特定できる情報が Google に送信されないように注意する必要があります。 [詳細](#)

測定中: ページビュー数 スクロール数 離脱クリック [他 3 個](#)

03

データストリームを追加する

【 アプリストリームを設定する 】



データ収集を始めるためにデータストリームを設定する

ストリームとは、プロパティのデータソースです。1つのプロパティに複数のデータストリームを設定できます（1つのデータストリームに1つのプラットフォームが紐づけられています）。このデータは、レポートとアナリティクスに表示できます。



【GA4プロパティを新規作成した場合】

①GA4プロパティを新規作成した場合、そのままデータストリーム作成画面に移ります。

②データストリーム選択画面が出るため、「Android アプリ」または「iOSアプリ」を選択します。

【GA4の管理画面から設定する場合】

①GA4メニューの左下[管理]をクリックします。

②プロパティ列の[データストリーム]をクリックします。

③データストリーム選択画面が出るため、「Android アプリ」または「iOSアプリ」を選択します。



03

データストリームを追加する

【 アプリストリームを設定する 】

× アプリを追加

Firebaseでモバイルアプリストリームを設定する
Firebase SDKでモバイルストリームを追加すると、対応する Firebase プロジェクトもプロビジョニングされて、自動的にプロパティにリンクされます。 [詳細](#)
既存の Firebase プロジェクト - 既存の Firebase プロジェクトで Google アナリティクスを有効にするには、Firebase にアクセスします。

Google アナリティクスには Firebase SDK が必要です。この SDK により、ほとんどの Firebase 機能が有効になります。また、iOS アプリ向けや Android アプリ向けのアナリティクスにも対応しています。 [詳細](#)

1 アプリの登録

iOSバンドルID*

アプリ名

App Store ID (省略可)

Firebase サービスの利用規約
 自分のアプリで Firebase サービスを利用すること、適用される [利用規約](#) に同意します。

アプリの登録

2 Google Cloud プロジェクトをプロビジョニングして構成する

3 設定ファイルのダウンロード

4 Firebase SDK の追加

5 初期化コードを追加

6 アプリを実行してインストールを確認

アプリストリーム設定画面に移ります。

①iOSバンドルIDかAndroidパッケージ名のいずれかと、アプリ名、App StoreID(※iOSの場合)を入力し、[アプリを登録]をクリックします。

②[次へ]をクリックし、手順に沿ってアプリの構成ファイルをダウンロードします。

③[次へ]をクリックし、手順に沿って Firebase 向け Google アナリティクス SDK をアプリに追加します。

④アプリを実行して SDK のインストールをチェックし、アプリが Google のサーバーと通信していることを確認します。確認ができればアプリストリームの設定は完了です。

04

計測タグを挿入する

04 計測タグを挿入する

最後に、データを計測するためのタグをWebサイト側に追加していきます。

測定IDを取得し、グローバルサイトタグ(gtag.js)か、Googleタグマネージャー(GTM)を使用して計測ができるよう設定を行います。

それぞれの違いは以下の通りですが、Googleタグマネージャーを使用したほうがGoogle広告を配信するときなども一括でタグを管理できるためおすすめです。

■グローバルサイトタグ

Googleのタグをウェブページに直接追加するために使用されるJavaScriptフレームワークです。

■Googleタグマネージャー

ウェブ上で、Googleのタグをまとめて管理できるタグ管理システムです。

04 計測タグを挿入する

【 グローバルサイトタグ(gtag.js) から追加する 】

GA4プロパティを新規作成して追加した場合、そのままタグ設定画面に移行するかと思います。
後から設定する場合、[管理]>プロパティ列の[データストリーム]から、追加したウェブストリームをクリックします。

<!-- Global site tag (gtag.js) - Google Analytics --> から </script>までのタグを全てコピーし、HTMLの<head>タグ内にペーストし追加します。

しばらくしてGA4で計測がはじまれば、正常に追加できています。

タグ設定手順
次のいずれかの方法を使用して、データ収集を開始します。

新しいページ上のタグを追加する 既存のページ上のタグを使用する

グローバルサイトタグ (gtag.js) ウェブサイト作成ツールや、CMS でホストされるサイトをご使用の場合、このタグを設定
プロパティでデータの表示を開始するには、アナリティクスタグをウェブサイトに追加します。

HTML の <head> セクションにグローバルサイトタグをコピーします。ウェブサイト作成ツール (GoDaddy、Shopify など) を使用する場合は、代わりに[こちらの手順に沿って、ウェブサイトにタグを追加してください。](#)

```
<!-- Global site tag (gtag.js) - Google Analytics -->
<script async src="https://www.googletagmanager.com/gtag/js?id=G-      "></script>
<script>
  window.dataLayer = window.dataLayer || [];
  function gtag(){dataLayer.push(arguments);}
  gtag('js', new Date());

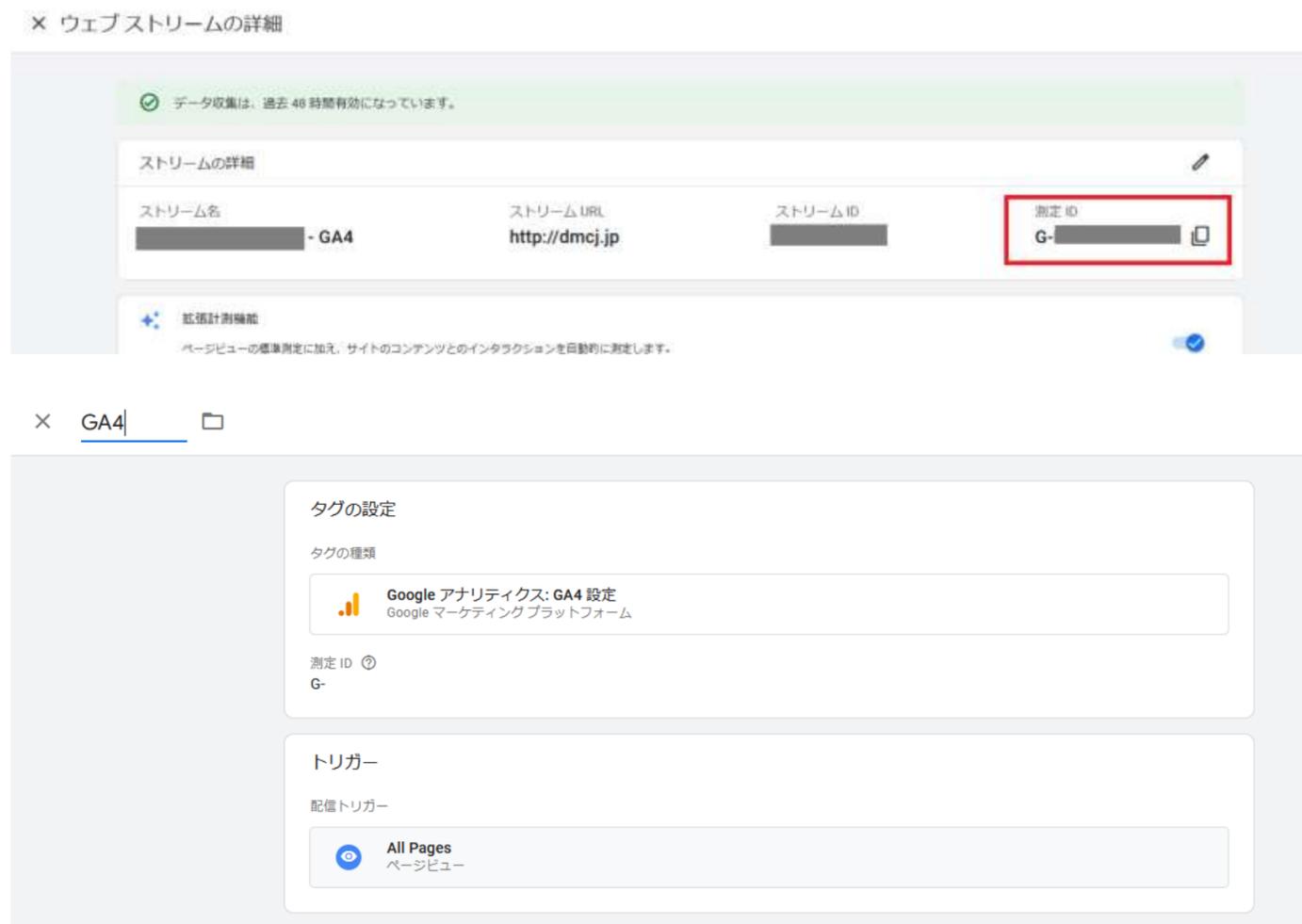
  gtag('config', 'G-      ');
</script>
```

Google タグ マネージャー
ウェブインターフェースからタグを追加したり管理したりすることで、Google アナリティクスなど Google の各種ツールや Google 以外のツールにデータを送信します。

04 計測タグを挿入する

【 Googleタグマネージャー(GTM) から追加する 】

GA4プロパティを新規作成して追加した場合、そのままタグ設定画面に移行するかと思います。
後から設定する場合、[管理]>プロパティ列の[データストリーム]から、追加したウェブストリームをクリックします。



①「ストリームの詳細」欄の[測定ID]のGから始まるIDをコピーします。

②GTMの管理画面に移動し、左メニューから[タグ]をクリックします。

③右上の[新規]をクリックし、[タグの設定]>タグタイプをクリックし、選択画面から[Googleアナリティクス:GA4設定]を選択します。

④任意のタグ名を記入し、先ほどコピーした測定IDを追加、トリガー設定を「AllPage」にします。

⑤設定を保存し、最後に設定を[公開]します。

しばらくしてGA4で計測がはじまれば、正常に追加できています。

会社概要

1988年創業の製造業、建築業など業界に特化した自社独自のデータベースを駆使し、合理的なダイレクトマーケティングサービスを展開する企業です。

■会社概要

名称	DMカードジャパン株式会社
本社所在地	〒112-0014 東京都文京区関口1-10-2
創業	1988年9月5日
資本金	20,000,000円
代表取締役	佐藤 義弘



■業務

情報誌の発行・Webマーケティングサービス

製造業向け情報誌 インダストリアルカード
建築業向け情報誌 アークカード
DMS ダイレクトマーケティングサービス
Webマーケティング支援サイト PRISMの運営
Webコンサルティング (SEM)
SEO施工
リスティング広告の運用管理・提案
Webサイト制作

■本書に関して

本書に記載のURL等は予告なく変更される事があります。

本書の作成にあたり可能な限り正確な情報を掲載するよう努めておりますが、コンテンツの特性上、必ずしも最新の情報を保証するものではないことをご了承ください。

本書に掲載された内容で生じた損害等の一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

デジタルマーケティングの最新情報公開中
<https://dmcj.jp/>